



写真には「加悦村天神入口付近の惨状」と記されています

7月は熊本、 100年前は丹後で。

7月28日、午後4時27分ごろに発生した熊本県熊本地方を震源とする地震では、30人以上の尊い命が失われたほか、一時、1万人超の方が避難を余儀なくされ、今もまだ、ライフラインや交通に大きな影響が残っています。

日本は世界有数の地震多発国です。大きな地震は、いつ、どこで起きても不思議ではありません。今から約100年前の1927（昭和2）年3月7日、この地域も大地震に見舞われました。北丹後地震は、マグニチュード7.3、最大震度6（当時の震度階級）を記録し、丹後地方を中心に甚大な被害をもたらしました。町内でも多くの家屋が倒壊し、夕食の支度時間ということもあり、いたる所で火災が発生するなど、多くの方が被災しました。

100年前の震災は、歴史の一ページではありません。「次に備えるための教訓」です。当時の被害や人々の経験を知り、いま暮らす私たちが何ができるのかを考えることが、未来の命を守る備えにつながります。

— コラム —

北丹後地震

～ 丹後を揺るがした未曾有の大震災 ～

どんな地震だったのか？

1927（昭和2）年3月7日午後6時27分、丹後半島北部を震源とする地震。地震の規模はマグニチュード7.3。丹後地方を中心に激しい揺れに見舞われ、特に郷村断層（網野町—大宮町）や山田断層（四辻—岩滝）の沿った町村では、多くの家屋が倒壊しました。死者は約3,000人、1万1,600戸余りの建物が倒壊・焼失するなど、近代日本を代表する大震災の一つです。

与謝野町（旧3町）の被害

与謝野町域（旧加悦町・旧岩滝町・旧野田川町）でも甚大な被害が発生しました。特に、山田断層帯に沿う旧野田川地域では被害が集中。『野田川町誌』には、地震当時の状況について、「家屋がピンピンと飛んで1メートルも違う方へ行って、傾いたり、倒れたりしていた」と記されています。また、山田村ではわずか5戸を残して集落の家屋が焼失し、市場村幾地地区では建物が全壊するなど、死者数は438人に上りました。旧加悦町、旧岩滝町でも多くの建物が倒壊するなど、大きな被害を受けたと記録が残っています。



三河内村



岩滝村

丹後地方を襲った 主な地震

- 1927（昭和2）年
北丹後地震
- 1846（弘化2）年
丹後地震（木津地変）
- 1774（安永3）年
丹後地震
- 1662（寛文2）年
丹後大地震
- 1660（萬治3）年
丹後但馬大地震
- 1496（明応5）年
丹後大地震
- 1475（文明7）年
丹後大地震
- 1022（治安2）年
若州丹後地震
- 937（承平7）年
丹後大地震

※ 出展：野田川町史（昭和44年発行）

【特集】北丹後地震から100年を前に、私たちができる備え

もし今、このまちで 大地震が起きたら。

もし今、このまちで大地震が起きたら、あなたは自分や家族の命を守る行動ができるでしょうか——。7月28日に発生した熊本県熊本地方を震源とする地震は、宇城市や氷川町で最大震度7を観測するなど、「地震はいつ起きてもおかしくない」という現実を改めて私たちに突き付けました。

来年の3月7日、北丹後地震発生から100年を迎える今、過去の教訓を振り返りながら、未来への備えについて考えます。